

公民科 学習指導案			
単元名	公共の扉（１）公共的な空間を作る私たち		
単元の目標 (単元で育成する資質・能力)	<p>①自らの体験などを振り返ることを通して、自らを成長させる人間としての在り方生き方について理解すること。 人間は、個人として相互に尊重されるべき存在であるとともに、対話を通して互いの様々な立場を理解し高めあうことのできる社会的な存在であること、伝統や文化、先人の取組や知恵に触れたりすることなどを通して、自らの価値観を尊重することができるようになる存在であることについて理解すること。 自分自身が、自主的によりよい公共的な空間を作り出していこうとする自立した主体になることが、自らのキャリア形成とともにによりよい社会の形成に結び付くことについて理解すること。</p> <p>②社会に参画する自立した主体とは、孤立して生きるのではなく、地域社会などの様々な集団の一員として生き、他者との協働により当事者として国家・社会などの公共的な空間を作る存在であることについて多面的・多角的に考察し、表現すること。</p>		
具体的な評価規準			
知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度	
自らの体験や悩みを振り返ることを通して、他者と共に生きる自己の生き方について考えることができる。また、自己の生き方が現代の諸課題と結びついていることを理解している。	社会に参画する自立した主体とは、孤立して生きるのではなく、地域社会などの様々な集団の一員として生き、他者との協働により当事者として国家・社会などの公共的な空間を作る存在であることについて多面的・多角的に考察したり、表現したりしている。	主体的に知識・技能を身に付けたり、事実を基に多面的・多角的に考察し公正に判断しようとしている。また、合意形成や社会参画を視野に入れながら構想したことを議論しようとしている。	
単元計画			
次	時	評価規準と評価方法	学習活動
一	1	<p>【評価規準】 自らの体験や悩みを振り返ることを通して、他者と共に生きる自己の生き方について考えることができる。また、自己の生き方が現代の諸課題と結びついていることを理解している。(知識・技能)</p> <p>【評価方法】 行動の観察、記述の点検</p>	①青年期とはどのような身体的特徴をとともうのかを理解する。また、青年期が歴史的に見て延長傾向にあり、現代社会においてその傾向が顕著となっていることについて理解する。
二	2 3	<p>【評価規準】 自分が様々な集団の一員であり、他者との協働により公共的な空間を作る存在であることについて多面的・多角的に考察したり、表現したりしている。(思考・判断・表現)</p> <p>【評価方法】 行動の確認、記述の点検</p>	<p>②青年期がとかく劣等感や無力感を覚える時期であること、このような悩みを共有できる存在として友人がいることについて理解する。</p> <p>③青年期の最も重要な発達課題としてアイデンティティの確立があることについて理解を深める。</p>
三	4 5	<p>【評価規準】 現実社会の諸課題の解決に向けて、選択・判断の手掛かりとなる考え方や公共的な空間における基本的原理を活用して、事実を基に多面的・多角的に考察し公正に判断しようとしている。また、合意形成や社会参画を視野に入れながら構想したことを議論しようとしている。(主体的に学習に取り組む態度)</p> <p>【評価方法】 行動の観察、行動の分析、記述の分析</p>	<p>④現代の若者がどのような職業観を持っているのか、実際の統計データも交えながら考察する。また、職業が自己実現とつながっていることを理解し、職業選択が自己理解の問題に関わることを理解する。</p> <p>⑤社会の対等な構成員として男女の平等な活動を実現させる「男女共同参画」という基本原理について、歴史的・文化的背景をふまえながら理解し、対話的手法を通じて多角的に考察する。</p>

本時の指導計画			
実施日時	令和〇年〇月〇日 (〇) 〇校時	指 導 者	〇〇〇〇
指導学級	〇年〇組 (男子 〇名 女子 〇名)	指 導 場 所	〇年〇組教室
単 元 名	「職業生活と社会参加」～男女が対等に参画する社会～	使用教材	〇〇〇〇
本時の目標	性的役割分担にとらわれることなく、男女が公共的な空間を作り出していく社会の対等な構成員であることを理解し、対話的手法を通じて男女共同参画社会の実現に向けて多角的に考察する。		
段階	学習内容	学習活動	指導上の留意点
導入 (5分)	<ul style="list-style-type: none"> ●テーマの確認 ●態度目標の確認 	<ul style="list-style-type: none"> ○イラストを見て、「男女共同参画」の視点から問題点を探す。 ○本時のテーマを確認する。 ○本時の態度目標を確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・日常生活で目にするイラストから男女を固定化させる表現があることに気づかせる。 資料：埼玉県民生活部男女共同参画課『男女共同参画の視点から考える表現ガイド』
展開 (40分)	<ul style="list-style-type: none"> ●男らしさ、女らしさ ●ジェンダー (男性・女性・LGBTQ) ●男女共同参画に至る歴史的・文化的背景 <ul style="list-style-type: none"> <少子化の理由> ※男女雇用機会均等法 男女共同参画基本法の制定 ●積極的差別是正措置 (ポジティブ・アクション)の実施 <ul style="list-style-type: none"> ※企業Aの方針 (女性管理職の割合) 	<ul style="list-style-type: none"> ○男らしさ、女らしさをイメージする。 ○ジェンダーの意味を理解し、性的マイノリティとしてLGBTQについて考える。 ○戦前の家制度、戦後の日本国憲法第24条について理解する。 <少子化の理由について考える> ※法制定によって職場環境が変化したことを理解する。 ○積極的差別是正措置について理解する。また、現在の状況を知り、企業Aの方針について、自分の考えを整理し、表現する。 	<ul style="list-style-type: none"> ※KP法を用いて展開する ・「男らしい」「女らしい」とされる振る舞い・イメージを考えさせる。 ・知識の理解だけでなく、心の性別があることに気づかせる。 ・ペアワーク、またはグループワークを行い、発表させる。 ・導入で使用した資料を再度提示し、「男女共同参画」の視点から問題点の改善策を考えさせる。 ・グループワークを行い、発表させる。
まとめ (5分)	<ul style="list-style-type: none"> ●本時の授業を通じて考えたことをまとめる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○これまでの学習を通して学んだ基本的原理を活用して、事実を基に考察し、自分の考えをまとめる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・本時の内容を振り返りながら、記述の点検を行う。